

【かゆみの対策】

A に対しては、尿毒症性物質を効率的に取り除ける透析方法や、生体適合性のよい透析膜の選択、透析液の清浄化、二次性副甲状腺機能亢進症や Ca・P 管理などの治療を行います。副甲状腺ホルモンが過剰に分泌されている患者さんでは、副甲状腺摘出術を行うと、かゆみが改善することもあります。

B に対しては、各疾患の治療を行うこととなります。乾燥肌に対しては、保湿剤やステロイド外用薬、抗ヒスタミン薬、ナルフラフィン塩酸塩などによる治療を行います。

【生活習慣の改善による対策】

掻きむしると傷をつくり、化膿して湿疹になり、更に悪化することが多いので、可能な限り掻きむしらないようにすることが重要です。

《入浴》

- べしべし洗い過ぎると皮膚が乾燥しやすくなるので、石鹸の使い過ぎに注意し、優しく洗いましょう。
- 熱いお風呂は皮膚を乾燥させる原因になるので控えましょう。

《お風呂上がり》

- 保湿剤などで皮膚に潤いを与え、乾燥を防ぎ油分を補うようにしましょう。
- 皮膚への刺激の少ない肌着(ゆったりした木綿や絹製品)をつけるようにし、汗をかいたら衣服の交換をこまめに行うことも対策のひとつとなります。



《就寝前後》

- 体が温まるとかゆみが増すので、入浴後すぐ布団に入ることは避けましょう。
- 電気毛布やカイロなどは使わないようにし、エアコンなどで部屋が乾燥しないよう加湿を行うようにしましょう。
- アルコールは控えるほうが良いでしょう。